

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ただいま登壇の許可を得ました5番山口良広の一般質問をただいまより行いたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。

私は今回の一般質問では、農業の視点から見た地域づくりについて、2番目に、長崎新幹線をどう武雄市発展に生かすつもりか、3番目に、杵藤クリーンセンターの跡地活用について質問したいと思えます。

今、宮崎の牛、豚などの畜産農家では口蹄疫により数十万頭の牛、豚が感染したり、発生地区から10キロメートル以内ということでワクチン接種後の殺処分と、畜産農家では我が子のように育てていた牛や豚を目の前で殺し、埋めなくてはならないということをおもうと心が痛みます。今後、万全の対策がとられ、早い回復を心からお祈りしたいと思えます。

さて、質問です。

この口蹄疫が武雄市内や、また10キロメートル以内で発生したらどんな対策がとられるのかお尋ねしたいと思えます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

口蹄疫の発生した場合ですけれども、一たんは終息するかに見えた口蹄疫が50キロから70キロ離れたところまで飛び火をしているという観点から、私たちとしては、口蹄疫が発生した場合は防疫対策本部を直ちに私のもとに設置をいたします。そして、これは県との協議でありますけれども、県知事より私に対しての指示の中に、口蹄疫が発症した家畜は速やかに発生農家全頭の殺処分措置をとらざるを得ません。近隣の畜産農家については、半径10キロ以内すべての家畜の移動制限を行います。半径10キロから20キロ以内での搬出の制限もあわせて行います。そして、地域住民への説明を行い、畜産農家へ通じる道路の交通規制、これは場合によっては封鎖を行います。半径10キロ圏の主要道路にて消毒ポイントを設置し、通過車両等の消毒を徹底するということが今防疫対策本部の決定事項で、起きた場合に直ちにこれを行うということになっております。

これはいろんなところでオープンになっていますので、あえて申し上げますと、私たちの隣の市でその発生の疑いがある牛が出たと。これは見たときにシロに近いクロだということをお聞いておりましたけれども、これは実は東京まで持って行って、その結果、シロだということで非常に実は緊張をしておりました。そういった中で、いつ何どきそれが――これは小池副議長からよく言われることであるんですけれども、すぐに対応できるということをしなきゃいけない。ただ、これもいろんな方々から伺いましたけれども、空気感染で飛ぶ、あるいは風で飛ぶといったときに、我々としてはどうすればいいんだろうかということをお非常に実は苦しく思っております、ただ、でき得ることはすべて迅速かつ果敢に行おうというこ

とは、これは行政主導できちんとやっていきたいというふうに思っております。

いずれにいたしましても、早く終息することを願うのみでありますけれども、あわせて今、他の地域で行われている、特にえびの市が参考になりますので、そういった事例を含めながら、我々としては、私は中心として、営業部を事務局として日夜研究に努めて、即応体制をとるように今鋭意事務を行っているところであります。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

今、市長のほうから、もし出た場合の対策というものが、本部をつくり、県知事等の指示のもとで、もし発生したら全頭処分という話が出てきたわけです。今、いろんな新聞等を見ますと、まず、発生したら速やかに写真等でも決定してもらいまして、すぐ殺して埋めるといものが最善策というふうなことでござっておりますので、市内にも畜産農家、牛、豚、いろんな方がおられると思いますので、そこからなるべく近いところで埋め込みの場所の確保というものが最重点だと思いますので、その点をよろしく御指導のほどをお願いしたいと思います。

それと同時に、今、空気感染というものが大きく叫ばれています。牛より豚がなった場合は何万倍とウイルスの感染力があるということを聞いておりますので、その点も考慮されて、できれば山間地でもありますので、消毒の徹底というものがどういうふうな方法がいいのか、武雄、佐賀に合った消毒体制の確立というものをよろしくお願いしたいと思います。

では次に、5月28日には口蹄疫対策特別措置法が可決されたわけですが、その法律では、発生した宮崎県だけが適用されるのか、それとも、まだ発生はしていないが、武雄市内畜産農家のように家畜市場の停止や素牛導入ができずに発生する経費負担や農業の減収にも適用できるのかお尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

浏野営業部長

○浏野営業部長〔登壇〕

口蹄疫対策特別措置法の適用についてでございますが、この法律の適用範囲ということでの質問であるというふうに思います。

口蹄疫が発生した宮崎県では、口蹄疫に対処するために要する費用、消毒、殺処分、埋設に要した費用や生産者の経営や生活の再建支援等について適用されます。

また、6月12日付で熊本県、大分県、鹿児島県の各県が車両等の消毒の義務を課する必要がある地域として指定がなされましたので、この3県の消毒に要する費用についても適用がなされることとなります。

現在、佐賀県内でも幹線道路の一部で消毒をやっておりますけれども、これについては、まだ対象になっていないということでございます。

また、家畜疾病経営維持資金、これは経営継続資金でございますけれども、この対象者に家畜市場の開催中止の影響を受けた九州・沖縄の子牛、子豚出荷農家を追加して、子牛、子豚出荷農家については、対象区域を移動搬出制限区域から九州・沖縄に拡大して、この部分については、経営継続資金の貸し付けの対象になるというのが現在の内容でございます。

以上でございます。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ということは、佐賀県内で発生しない限りは特別措置法の適用はできないということですね。

そうした場合に、今言いましたように、市内畜産農家の素牛の導入とか、きょうの家畜市場の再開では素牛が43万円と、10%以上の高値で取引が始まったというふうなことが載っております。それらの対策を十分にとって、今、畜産で生活をしている農家の皆さんが今後も農業を継続されるような形で、きめ細かな対策というものを農協と一体となってとってもらえればありがたいと思っています。よろしくお願いします。

では次に、今回の原因の一つに、口蹄疫が何から来たかということですけど、原因の一つに輸入わらなど粗飼料からの発生も指摘されているわけです。

そこで質問ですけど、市内畜産農家で輸入わらなどの購入があるのかないか、その点からお尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

刈野営業部長

○刈野営業部長〔登壇〕

市内肥育農家に輸入わらの使用があるのかという御質問だと思うんですけども、私どもで調べましたところ、市内肥育農家でも3戸の農家が輸入わらを使用しているという現状があります。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

今、経費節減の中で、以前は我々園芸農家もわらあたりの購入ということで、たくさん使っていた事実もあります。それは過去のことでですけど。今、いろんな政策の中で、飼料作物、麦、大豆等の飼料わら等の確保等ができるような状態ですので、耕畜連携等を速やかにして、

今後、輸入わりに頼らずに、今の頭数を減らさずに飼育につながるような対策をとってもらえば、今後、口蹄疫の地元からの発生原因の一つでも減らすことができれば、それも農業振興に、畜産農家の一助になると思いますので、その対策をよろしくお願いします。

では次に、日本農業の現状についてお尋ねします。

日本の食料自給率はどうなっているのか。それと、主要国の食料自給率との比較はどうなっているのかお尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

渚野営業部長

○渚野営業部長〔登壇〕

日本の食料自給率についてでございますけれども、平成20年度カロリーベースで41%でございます。主要先進国の食料自給率、これは統計が平成15年のもので、ちょっと古いかと思っておりますけれども、アメリカで128%、カナダで145%、フランス122%、ドイツ84%となっており、日本の食料自給率は先進国の中でも最低の水準にあるというふうに認識をしております。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

次に、農産物の輸入ですけど、カロリーベースで41%が自給率といいますと、約60%が輸入となるわけです。輸入農産物の主なものがどんなものか、そして、それがどんな国から輸入されているのかお尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

渚野営業部長

○渚野営業部長〔登壇〕

主要農産物の輸入国と数量についてでございますけれども、日本ではいっぱいとれていると思っております米、これについても米国から37万トン、タイから22万トン、中国8万トン、それから、小麦でございますけれども、米国から284万トン、カナダから94万トン、オーストラリアから88万トンとなっております。

大麦につきましては、オーストラリアから87万トン、カナダ27万トン、ウクライナ16万トンで、みそとかなんとかに使います大豆についてでございますけれども、アメリカから241万トン、ブラジルから57万トン、カナダ35万トン、家畜の飼料となりますトウモロコシでございますけれども、これはアメリカから1,572万トン、ウクライナ26万トン、アルゼンチン19万トンとなっております。

また、地域の産品でもありますタマネギでございますけれども、これについても中国から17万トン、アメリカから2万トン、ニュージーランドから4,000トン輸入をしております。

次に、肉類でございますけれども、牛肉につきましても、オーストラリアから36万トン、米国から7万トン、ニュージーランドから3万トン、豚肉につきましても、アメリカから29万トン、カナダ17万トン、デンマーク12万トン、このように、あらゆる産物について輸入をしている状況にあります。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

日本の食料の6割がどこかの国で、どんな状況で、外国の自然を壊したりしていないか、また、どんな人々の営みで生産しているかわからない状況で、ややもすると日本人向けに生産すればもうかると自然を破壊し、大量の水を使いながら砂漠化を推し進めながらつくっているのが農産物です。日本人はそんなものを食っているわけです。そんなところでできているものを食っているわけです。そして、うまいとか、うまくないとか、賞味期限が過ぎているとかいって大量に捨てながら、外国からの輸入農産物で日本人の胃袋を満たしているのです。それならば、今言われているように、耕作放棄地がたくさんある中で、そんなところでつくればいいじゃないかとなるわけですが、現実の農業情勢を見ますと、今の後継者がいない、もうからない、農業だけでは食っていけないという現状の中では、なかなか生産が伸びないのが現状です。

それで、今現在、民主党の農業政策では戸別所得補償制度で農業振興をしようとしているわけですが、この戸別所得補償制度とはどんなものでありますか、まずお尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

刈野営業部長

○刈野営業部長〔登壇〕

戸別所得補償制度の概要についてでございますけれども、大きくは2点ございます。まず、定額部分として、10アール当たり1万5,000円の助成をする。（186ページで訂正）これは1ヘクタール、1町の水田をつくられるとするならば、自家保有米、縁故米の10アール分を引きまして9反分ですね、その分について1万5,000円の助成をするということと、もう1つは、変動部分として、ことしの22年産の米の販売価格が過去3年間の平均販売価格を下回った場合には、その差額をもとに算定して補てんをするというのが大きな目玉ではないかというふうに思っています。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

それにいろんな補助金あたりも加算されていくというふうな流れになっていくわけですけど、今までの補助政策の中では麦、大豆の作付というものが主になってきて、ブロックローテーションでやってきたわけですけど、今現在、佐賀あたりでしています野菜とか施設園芸等の、そういうふうな特殊作物に対する、特別栽培に対する戸別補償というものは今のところはまだ検討されていないわけですかね。そこんたいをお尋ねしたいと思いますけど。

○議長（牟田勝浩君）

渕野営業部長

○渕野営業部長〔登壇〕

お尋ねのキュウリ等についての戸別所得補償ということについては、現在まだ検討されていないということでございます。

あくまでもことはモデル事業でございまして、この点について、来年度どのように変わっていくかというのは、まだちょっとつかんでいないというのが現状でございます。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

その点、今、畜産農業とともに、佐賀では、武雄では園芸振興というものが大いに叫ばれていますので、ぜひその点も含めて、今後いろんな機会に声高らかに訴えてもらって、その点の補償ができるような形でよろしくお願いします。

それとともに、今、戸別所得補償制度で一番私が危惧しているのが、これまで武雄の場合は集落営農という形でしてきたわけです。ブロックローテーションを取り組み、それが農家所得の向上、地域コミュニティーの醸成や地域づくりの一翼を担い、機械化体系が確立して、もともと持っていた農機具を売り払いながら集落営農という形で農業をつくらうというような形をしていたわけです。それが今聞きますと、この集落営農の中に戸別所得補償制度がなじまずに、またもとの形に戻るんじゃないかなというふうなことを聞くわけですけど、その点、今どういうふうに、集落営農と戸別所得補償制度の関係をお聞きしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

渕野営業部長

○渕野営業部長〔登壇〕

従来助成のあり方からして、今回一番変わったのが、今議員御指摘のとおり、集落営農で取り組んできた農業、この組織が崩れていくのではないかなというような心配であるというふうに思いますけれども、今回の戸別所得補償制度では、営農集団が、先ほど1ヘクタールの水田をお持ちの方がお米をつくられる場合に、自家保有米として10アール控除ができますよというような話をしたわけですけども、営農集団で20ヘクタール皆さんでつくられるとするならば、20ヘクタールの場合は、1割やけん、2ヘクタールの自家保有米ということで

1万5,000円の助成がないわけです。これを組織、団体の目的や共済掛金の分配及び共済金の配分方法ですね、それから、代表者や団体の意思決定機関並びにその決定方法を規約で定めている団体であれば、20ヘクタールの中から10アールだけ引けば、あとの19ヘクタールについては10アール当たり1万5,000円の助成がなされるということで、今の営農集団では個々の作付面積から10アール引いていくようになりますけれども、そこいら辺の規約をぴしゃっと決めてあるところは10アールだけでいいわけですがけれども、決めていないところは個々に引くということになりますので、要件が緩和されるといいながらも、営農集団の中の温度差、共済掛金とか無事戻し金ですか、そういうところの配分とか掛金の方法等については温度差がありますので、なかなかうまくまとまっていないのじゃないかなど。そういうところが、いわゆる営農集団が培ってきた地域のコミュニティーと言いかえれば、そういうことになろうかと思えますけれども、そういう集団を壊す危惧があるんじゃないかなというふうに思っています。（186ページで訂正）

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ちょっと今、言葉が難しくなっているわけですけど、今、私たち集落営農というものは、一つの経営体として、その中で経営をして、そして一緒に共済を掛けながら、1人のリーダーがおりまして、その指導のもとに地域の農業というものをやっているわけです。そして、できた米というものは、我々生産者でありながら、その集落から買って使っているというのがこの集落営農だと思っております。この集落営農が今、20町歩やっている大きな米麦農家とちょっと変わらないような農業経営だと思っておりますので、ぜひその一つの農業経営となるような形で指導してもらって、武雄の集落営農が、ああ、やっぱりさすがは武雄だなと、ブロックローテーションも確立しているし、その中で安心して指導者のもとで米、麦をつくれればもうかるよと言われるような制度を、これ以上、農機具等が導入されずに分割されないような農業振興というものを集落営農の中でしてもらいたいと思います。よろしく願います。

次に、武雄市の農業の現状です。

今、私も認定農業者の会をしているわけですけど、現在、市内の認定農業者は116名ほどしかおりません。それが旧町のいろんなまちの中でして、平均すれば40代から60代前半までの方をすれば、各地域に平均10名もいないというふうな、10名ちょっとぐらい、十四、五名ぐらいしかいないということです。そんな中で、地域の農業を守らなくてはなりません。どうしたら後継者ができるのか、大事なところだと思います。

そこで、私は農業が自然とつながり、山の緑、水資源の確保、それに植物や牛、豚など畜産物を含めて生物の成長など、教育も含めて多面的機能があるのが農業だと思っております。

そこで、私は子どもたちにどうしたら農業とつながる面を育てられるのかというものを訴え、質問したいと思います。

以前、トムソーヤの発表で、ことしからなくなった西川登小学校矢筈分校の子どもたちが地域のおじちゃん、おばちゃんと野菜をつくり、それを料理して食べるまでを発表しました。その中で、そのおじいちゃん、おばあちゃんから、トマトにはなぜ支柱が必要なのか、わき芽を摘まなくてはならないのか、トマトは赤くならないとなぜ食べられないのかを話し合いながら、子どもたちとの会話、それが発表されました。これぞ本当の自然からの学習だと思います。

また、一昨年、私の地域、朝日町黒尾では通学合宿が行われました。そのとき、1日目の日曜日にまずいろんな食料品を調達するんですが、子どもたちには前から頼んでおいた野菜畑のトマト、キュウリ、ゴボウ、大根を、はさみやスコップ、くわを使っての収穫作業です。そして、そこでも農家のおじさん、おばさんとのお話も盛り上がりました。

これぞ教育、自然から学ぶ教育の原点だと思いますが、教育長や市長はこの農村教育についてどう思われるかお聞きしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

大変不自然さの多い世の中でございます。であるからこそ、自然に親しむ大事さというのが余計必要であり、大事になってきているというふうに思っております。

いつかも述べたかわかりません。子どもは土と水さえあれば何も要らないくらい、時間を忘れて遊ぶわけであります。また、泣いていても、外に連れ出ただけで泣きやむという自然の生命であると、生き物であるということを感じるわけです。特に、農業体験学習はその土との触れ合い、それから、今お話にあったそれぞれの農作物との触れ合い、これが今の子どもたちに不足しているということもあって、特に、子どもたちも新鮮に感じるということ。通学合宿のお話をされましたが、ただ一人一人の農業体験よりも、さらに友達と一緒に共同でという意味のほうも非常に大きいものだというふうに思っております。そういう意味で、農業体験学習の大事さというのは、極めて大事なものであるというふうに認識しているところです。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

今、農村教育のことが評価されたわけです。それで、私は近くで、遠くまで行かなくてもいい。先ほどの矢筈分校や北方町の杉岳分校、または地元の公民館を利用して、長期の学校の休みのときなどを利用して、また週末を利用しての農村留学などしたら、農業・農村の生

きた教育ができるのではと思うわけです。

今、教育長の言葉の中にあっただけですが、そういうふうな研修の場というものを確保できないのか、再度お尋ねしたいと思いますけど。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

実際に学級園とか学校園で農作物を育てる、収穫し、試食する体験活動等、それぞれの学校で取り組んだりしておりますし、もち米を田植えから収穫して、もちつきまでする体験なども実際にされているわけでありまして。そういう農山漁村での交流プロジェクトがひととき話題になりましたけれども、これも規模は縮小されていますが、その価値というのは認められているわけでありまして。現実には120万人を1週間というのは、学校教育活動上は非常に難しいという面も片方にあるわけでございます。

今御提案にありましたように、かつての分校の跡地とか公民館とかを利用して、そして農業体験活動を中心にした活動ができないかというのは非常に意義あることでありますし、通学合宿もまた今年度もいろんな公民館で取り組んでいただいているということでございます。ただ、お考えいただくとおわかりになるわけですが、やはりそこにリーダーといいますか、御指導いただく方とか、ボランティアでもいいですので、子どもたちを御指導いただく方、支援していただく方をお願いできましたら、非常に効果的な子どもたちにとって意義ある体験ができるのかなというふうに考えます。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひそういうような形で農村・農業に触れ合いができるような教育等をよろしく願います。

特に、子どもたちとの触れ合いといえば、前回の一般質問でも発言しましたが、朝日公民館で行われている朝日の里無人販売です。前回の一般質問では、高齢者の生きがいの観点から話しました。今回は子どもたちとの触れ合いを検証してみたいと思います。千菜畑といいますと、自宅から一番近い畑で、家で利用する野菜を百姓百作と言われるように、いろんなものをつくっているところです。そこを管理するのはおじいちゃん、おばあちゃんを中心で、そこに学校から帰った子どもたちが時には手伝ったりしながら栽培しています。そこにも子どもたちとの触れ合い、それがあつたのです。たくさんできたときには武雄の市場に出荷したりしていたのですが、それが今、朝日では公民館長の発案で朝日の里として出荷販売されているのです。

いろんなところに大きな直売所が建っています。それもいいでしょう。でも、私は自動販

売機がいろんなところにあるように、武雄の農村に行けばいろんなところに無人販売があるよ、そして近くには生産しているおじさん、おばさんがいて、いろんな話ができ楽しいよと言われるまち武雄もいいんじゃないかと思うわけです。私はこれも観光だと思うわけです。ぜひ農村に足を運びながら、無人販売所でいろんな野菜を選びながら、そこら辺におられるおじいちゃん、おばあちゃんと、生産する方とお話しのできる心の触れ合い、それも武雄の農業振興につながるんじゃないかと思うわけですが、もしよかったら、市長、どういう考えを持っているかお尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

山口良広議員が朝日の公民館において、無人の野菜の直売所を主導してされているというのは敬意を表します。無人ですので、人がいないということで、触れ合いがなかなかできづらいというのはあるんですけど、さっきおっしゃったように、こういった無人の直売所が広がるということは、これは非常にいいことだというふうに思っていますので、きょう、たくさんの方がケーブルワン、あるいはユーストリームを通じてごらんになられておりますので、いろんなところに今あります。例えば、朝日公民館だったり、先日オープンをした北方大崎の里の駅きたがたであったり、西川登の、あそこは原製茶園の近くでしたかね。（「下庭木」と呼ぶ者あり）下庭木にあたりとか、さまざまなところにありますので、ぜひ実際足をお運びいただいて、新鮮な野菜、あるいは果物を購入していただければありがたいと思います。

ぜひ山口良広議員におかれては、2号店、3号店、4号店を出していただくことをお願い申し上げます、答弁を閉じさせていただきます。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

今、こんなことが何で農業振興になるかと思われるかもわかりません。私の持論を述べさせてもらいます。それは私を初め、40代までの農業者は、専業農家をやっている人は、自分の両親やおじいちゃん、おばあちゃんと農作業の手伝いをしながら農作物の成長の中から、また、いろんな夢やよその農家の話を聞いて、農業のおもしろさや、がんもうかるないばおいもしてみゅうかなということで、40代までの農業の後継ぎはそれなりに出てきていました。しかし、それが今の時代、農家の子どもだから後を継いでと言ってもなかなか継いでくれないし、その数も困るとというのが今の現状だと思います。

そんな中で、今、いろんな雑誌やテレビ等の番組を見ますと、農業でIターンをしてみたいとか、農業をやってみようというふうな国策とも思えるように、いろんな週刊誌等とかで

も出ているわけです。そんな中から、僕の農場を見たり、畜産農家の牛、豚の豚舎を見ながら、よし、おれもここで働いてみたいなという若者ができたらいいんじゃないかなというものが私の考えです。ぜひいろんな機会に子どもたちが農業現場に足を運び、それが後継者になったり、また、あるときには応援団になり、都会で武雄の、佐賀の農産物の販売をいっちょやってみようかなという方がおったら、もうけもんです。ぜひそんな形で農業の理解者を育ててみたいというのが私の今回の農業振興の考えです。

こんな考えを持っていますので、どう思われるか、よろしく。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

本当にいいお考えだと思うんですね。本当に後継者が、例えば、どこもそうなんですけれども、なかなかいないといったときに、ともすれば、例えば、自分の息子さんとか娘さんを後継者にするというのは今までの農村の考え方だったとすると、いろんな雑誌で今、飛び込みとか体験とか、いろんなパターンがふえています。1つお願いがありますけれども、ぜひ良広体験農業園をつくっていただいて、看板を「良広」とするだけで、あれは何やろうということで、近くを通った人が必ずまた口コミで言うんですね。今、ツイッターでも言いますので、ぜひ良広議員の立派な御自宅をキーステーションとして、前にはレモングラスのあれもありますので、そういったことで進められればいいのかなど。今、部屋も余っておるですもんね、御自宅も。そこに寝泊まり——一番問題なのは寝泊まりだそうなんです、体験をするに当たっても。あと優しい奥様とかお父さん、お母さんもいらっしゃいますので、そういう意味で、1つきっかけがあると、じゃ、私たちもやろうというふうにつながるのが、例えば、長崎県の松浦市がそういうふうな例になっていますので、そういう意味で、山口良広議員におかれましては先駆的な役割を期待するところが大きいです。特に、こういった議会でお話をされると、これは今、世界中継になっていますので、恐らくこれを見た方が、ああ、良広さんのところやったら行ってみようというふうになる可能性もありますので、そういう意味で、今できることの延長線として取り組みができないかなど。それについては、きちんと我々はいろんな立場を超えて応援をしたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

温かいエールをもらいましたので、私なりに頑張って農業振興をし、それがひいては地域につながるような形でやりたいと思います。

次に、長崎新幹線をどう武雄市発展に生かすつもりかについて移りたいと思います。

九州新幹線長崎ルートについてです。

現在の九州新幹線長崎ルートは、事業費を含めてどんな状況になっているかお尋ねしたい
と思います。

○議長（牟田勝浩君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

現在の西九州ルートの認可状況及び事業費の関係でございますけれども、平成20年3月に
認可がありました内容につきましてでございますけれども、武雄温泉―諫早間の延長約46キ
ロで、認可金額については1,840億円ということになっております。これはこのルート間の
トンネル及び高架などの土木工事について認可を行い、レールや電気設備については未認可
の状況ということでございます。

この認可以降、今年度分まで含めて、この西九州ルートには150億円の予算化がなされて
おりまして、佐賀県側の工事としましては、嬉野市の俵坂トンネルが発注をされ、武雄市内
におきましては、武雄町東川登町の一部について、現在、用地測量業務や家屋補償調査業務
が実施をされているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

わかりました。今、俵坂トンネルとか、いろんな工事が進んでいると思います。

次に移ります。

長崎県知事の中村法道知事は武雄温泉駅―長崎間をフル規格で整備した場合の費用対効果
などの独自調査結果を説明し、時間短縮効果を26分から38分に拡大するとし、長崎までのフ
ル規格での建設を訴えたと聞き及んでいます。そしたら、前の質問でも出しましたように、
フリーゲージの問題が出てきます。そうすることにより、鳥栖までは新幹線として来るわけ
ですけど、鳥栖から武雄温泉駅間は在来線をフリーゲージで移動し、そしてまた武雄から長
崎までをフル規格としましたら、再度武雄温泉駅で軌道の変更をしなくてはならないという
ことで、武雄温泉駅には全部の車両がとまらなくてもスローダウンをするということです。

そんな中で、私は長崎までのフル規格の運動と肥前山口までの複線化の運動をぜひやるべ
きだと思いますけど、その点、市長はどういうふうな考えを持っておられるかお尋ねしたい
と思います。

○議長（牟田勝浩君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

現在の武雄温泉―嬉野間の認可内容については、スーパー特急方式での認可ということで、
フリーゲージトレインについては今開発中ということで、たしかことしの夏ごろまでに開発

を継続するかどうかという成否を見きわめるということになっております。

その上に立ってでございますけれども、私ども今回の西九州ルートの認可につきましては、沿線5自治体、これは長崎市、それから諫早市、大村市の長崎県側の停車駅、また、あわせまして佐賀県側の嬉野市と武雄市の5市で協議会をつくっております。ここにおきまして、毎年6月、ことしもちょうど6月10日前後にありましたけれども、この全国市長会にあわせて政府要望について取り組んでいるところでございまして、内容的には議員御指摘のとおりで、今年度の内容を申しますと、1つは、諫早ー長崎間の高速化のためのフル規格での施工の延伸と今認可の西九州ルートの事業推進、それと肥前山口ー武雄間の複線化、それとフリーゲージトレインの開発の推進ということを目として政府に求めているところでございます。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

今、スーパー特急方式というふうな言葉が出てきたわけですけど、このフリーゲージトレインが認可されれば、フリーゲージでいくというふうなことで解釈していいわけですね。それができなかつたら、スーパー特急で東北のような形で行くというような解釈でいいんですか、その点、ちょっと確認したいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

これは自民党政権時代から認可を受けた段階でスーパー特急方式というのは、これは開発が間に合うかどうかというのが、その時点から危ぶまれていたと。それで、先ほど申し上げたのは、昨年8月、政権が変わりました。それで、年の瀬に事業仕分けが行われて、この段階で本年度の予算についてはフリーゲージトレインについては満額認められましたけれども、昨年10月の佐賀新聞にも載りましたけれども、これを1年間見きわめるということになっております。現在、技術的なものから申し上げますと、高速試験についてはすべてパスをしているということで、今、130キロ走行時点の踏切、それから曲線部における台車の強度ということで、そここのところ今、鉄道・運輸機構のほうで開発が続いているということでございまして、これを政府の新幹線関係の副大臣並びに政務官でつくられる連絡会議で、その成否について見きわめるということになっているところでございます。（発言する者あり）

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

このフリーゲージトレインといいますと、私は今、応援の言葉も出ましたように、新幹線特別委員会の中で一昨年、小倉の工場にも行ったし、その中で、いいものというものを理解してきたと思った一人です。私はこのフリーゲージトレインができれば、この後、最後の項目で聞きたかったわけですけど、その前になりますけど、フリーゲージトレインというものは新幹線とJR、JRと私鉄と、いろんなレールが一本につながるわけです。それがフリーゲージトレインのよさです。

私はそんな中で、この前の日曜日やったですかね、「佐賀空港経由長崎新幹線と新幹線物流」という講演が佐賀大学で行われたわけです。それで、私も興味がありましたので、行きました。そしたら、そこで九州旅客鉄道の初代社長である石井幸孝氏や久留米大学経済学部大学院教授の大矢野栄次氏、佐賀大学名誉教授の荒牧軍治氏の基調講演があったわけです。その中で、表題にありますように、佐賀空港経由長崎新幹線といえば、現実的にはルートの変更というものは無理かと思えたわけですけど、そんな中で私が関心を持ったのは、この新幹線を物流には利用されないかというのが、この基調講演の中で物流もセットした新幹線の利用という話があったわけです。

そんな中で、私は農業振興の意味から見まして、今、東京への貨物便の輸送というものは、CO₂の削減の中で大型トラックでの輸送が規制されて、今以上に農産物を東京に持ち込むというのは厳しくなっています。そうなったら、飛行機便ということで飛行機が来るわけですけど、佐賀からとか鹿児島からとかの距離は、世界いっぱいのいろんなところから来る飛行機便と変わらない時間で来るわけです。それじゃなかったら、船便といえば大量に横浜港などに上ってくるわけです。そうした場合に、私はこれを一番、トラック便がだめで、国内便を考えたら、深夜の東京大田市場に夜中の3時ごろ届くような、九州発、鍋島の貨物エリアとか熊本県の八代あたりに集めた農産物をノンストップで深夜の電力を使って東京まで運べば、おもしろい農産物の流通ができるんじゃないかと思ったわけです。そうするためには、どうしても新幹線の線路の中で乗せることはできませんので、フリーゲージだから在来線のところに入り、そして、それをずっとノンストップで行けば東京まで届く。そして、東京の大田市場の引き込み線に行けばおろすというふうなおもしろい物流のシステムというものを思ったわけです。

そんな意味からも、ぜひこのフリーゲージの推進というものは原点になるわけです。こんな考えを持ったわけですけど、どう思われるか、ちょっとお尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、いい考えだなと本当に思います。物流で新幹線というのはなかなか我々も考えつか

なくて、これは以前、牟田議長が一般質問の折に新幹線の活用で非常に印象深く残っていることがあって、例えば、博多の明太子、これは新幹線で情報を乗せて、例えば、大阪なり東京に運んでいった。仙台の牛たんは、新幹線ができる前というのは私も余り知らないぐらいにローカルな食べ物だったのが、東北新幹線の開通によって情報として広まり、今、東京にたまに出張で行きますと、仙台の牛たん屋さんが軒を連ねてあるところも結構あります。

したがって、今回の新幹線は、私も特産物の情報が福岡、大阪、東京に行くんだなと思ってたんですけど、よくよく考えてみれば、例えばアメリカ、10年前に総務省のお金でバージニア州に出張に行ったときに驚くべき光景が、仕事をした上で公園でたたずんでおったら、ずっと貨物車両の通るわけですね。10分たっても、30分たっても途切れんわけですよ。そいぎ、どんくらいたって途切れたかといえ、1時間半です。ずっと大陸鉄道で貨物の。こがんところと戦争ばしたとねと思いました。

ですので、ちょっと話はずれましたけれども、列車で運ぶというのは、日本の場合はトラック文化ですので、今までトラックだったんですけど、多分、先ほど議員が御指摘のあったように、CO₂削減であるとか、いろんなことを考えた場合に、人が乗らなかつたら物に乗せるという、その御発想というのは非常に我々としても勉強になります。したがって、私たちとすれば、ぜひそういう物に乗せる物流、人流だけじゃなくて物流も加味しながら、それはフリーゲージであろうが何であろうが、それは余り関係ない話だと思いますので、そういう情報発信もぜひしてまいりたいと思います。

そうなってくると、例えば、黒尾のキュウリであるとか、若楠ポークであるとか、さまざまな特産品が本当に新幹線で行くということになると、本当にそれは次の世代の、次の時代の流通の一つのあり方だと思っておりますので、ぜひそういった御意見をまたお寄せいただき、これは重く受けとめたいと思います。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ありがとうございました。

これにもう1つ、帰りの便はどうするかというようなことを言わねばらんやったわけですけど、この先生たちの講演の中で言われたのが、今現在、4,000メートル以上の滑走路を2本以上できるのは有明佐賀空港以外にはないということも言われました。ぜひ帰りの便ではそれを有明佐賀空港を、場所的に見ると福岡空港のサポートとして建設コストの安い国際ハブ貨物有明佐賀空港として整備していけば、おもしろい物流ができるよという話もありました。ぜひこれも私は市長も一緒になって運動していきたいと思います。

次に、看板についての提案です。

今、武雄市内にはいろんな案内板で道案内がしてあるわけですが、中身を見ますと、私が見た範囲かもわかりませんが、日本語だけの表示しか見かけないようです。国際化の時代、中国語、韓国語、英語などの表示があってもいいんじゃないかと思うわけですが、その点どうでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

看板になると私が力も入りますので、さきの全国市長会の折に佐賀県選出の国会議員の皆さんと私たち市長会で意見交換会があったときに、神埼市長さんが全く同じことをおっしゃられて、ああ、それはそうだということ、だから、中国語も2種類あるんですね。中国語の簡略字と台湾の正統字と。それと、韓国語は入れるということで、ぜひそれは国策として取り組んでくれないかと。要するに、例えば、武雄市だけでそれをやっても、隣に行けばまた違うとなると、それは市単位の話では多分ないと思うんですね。ですので、統一の規格をつくって、それはぜひ国策でやるべきではないかということをおっしゃったときに、民主党の先生、自民党の先生いらっしゃいましたけど、それはそうだねという話だったので、それは国レベルで話が進んでいくものだと思っています。

ただ、国レベルで話が進んでいくと時間がかかりますので、では、武雄市ではどういう表記の仕方があるのかと。道路標示の場合は、これは国土交通省等の関係がありますので、余り規制がかかっていない市レベルでできるようなところ、特に、新聞に載っておりましたけれども、武雄商工会議所が韓国語のもてなし講座を行われているという観点からも、やっぱりそういう多言語というのを案内に入れていくということは重要だと思っておりますので、サイン計画にあわせて、それも検討の一つの項目の中に入れ込みたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

今、商工会議所の活動発表の中で韓国語講座のこともありました。今、いろんな観光にかかわる人も大変苦労し、その中で頑張っております。ぜひ市の人の中で、観光客誘致の中にもできればいいと思っています。

次に、杵藤クリーンセンターの跡地活用について移りたいと思います。

杵藤クリーンセンターの跡地活用についての市長の見解をお伺いします。

杵藤クリーンセンターは平成元年4月から操業が開始され、現在21年が経過しましたが、十数年前に埋立処分場から漏水事故が発生し、大規模な改修工事が行われ、その後は事故もなく、地元の人々は安心して今日に至っております。しかし、埋立処分地は限界に近づきつつ

あり、佐賀県ごみ処理広域化計画によりますと新しく伊万里市に建設が計画され、今年度から用地造成、平成26年には建設工事が完了すると聞いております。

したがって、杵藤クリーンセンターの操業は、あと5年間でその歴史を閉じることになります。地元住民、朝日町民はクリーンセンター閉鎖後の埋立処分場から出る地下水の安全性への心配、一方では跡地活用についての期待を持っています。

そこで、お尋ねです。県ごみ処理広域化計画によるごみ処理センターの計画の概要と現在の進捗状況はどうなっているのかお尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

佐賀県西部広域環境組合で進めてあります事業なんですけれども、これは伊万里市に約50ヘクタールの建設候補地の選定を行いまして、その中で建設適地の選考が行われまして、その結果、約7ヘクタールが建設予定地としてされたところでございます。

また、処理施設につきましても4つの方法がありますけれども、その中から、現在のところセメント原料化システムが選定されているところでございます。

以上でございます。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

杵藤クリーンセンター操業停止後は、埋立処分場から出る地下水の水質検査、排水パイプライン等の点検等も確実に定期的に行われ、安全・安心が確保されるよう管理していただくことを強く要望したいと思います。

では次に、跡地の活用についてですが、地元や朝日町民には非常に強い関心があるわけですが、ここで跡地活用の私の提案を述べたいと思います。

クリーンセンターの敷地内の浸水処理施設などの必要施設を除き、約4万5,000平米を公園化して市民に開放する。公園内には樹木の植栽や花壇を造成して遊歩道をつくり、また、芝生張りのパークゴルフ場やグラウンドゴルフ場を造成します。特に、パークゴルフやグラウンドゴルフは次のようなメリットがあります。1つ、年齢や世代を超えた気軽に楽しくできる市民交流のスポーツです。2番目に、観光客や宿泊客の誘致につながり、観光地としての付加価値を高めることができます。3番目に、高齢者に優しいスポーツで健康維持に効果的で、医療費負担の軽減にもなります。特に、パークゴルフは全国で124万人の愛好者がいますが、九州では佐賀県だけが国際パークゴルフ協会から認定された公認のパークゴルフ場はありません。新しくつくっていただければ、必ず認定されると期待されます。

元氣な武雄市になるためにも、どうかすばらしい跡地利用をしていただきたいと思います

ので、市長の前向きな答弁を期待しますが。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今後のプロセスをお話しさせていただきます。これは広域圏の管理者としてお答えをしたいと思いますが、今年度中に跡地利用の検討委員会を広域圏の議員を中心として選定をいたします。幸いにして12番吉川議員、14番末藤議員が、そして前田副市長がメンバーでありますので、ここを中心として検討の委員会をつくります。その上で、地元の、特に繁昌区、川上区、黒尾区等になろうかと思っておりますけれども、そこの方々も、もしよろしければ、お許しをいただければメンバーに入らせていただいて、官民を挙げて検討するという体制をとってまいりたいと思っております。

いずれにいたしましても、この跡地利用というのは非常に大切な話だと思っておりますし、これは武雄市というよりも広域圏の所有でありますので、今後は広域圏の検討委員会を窓口として、さまざまな御要望を伺い、そして、広域圏にとってもこれは本当にいい跡地利用だとなるように検討を進めてまいりたいというふうに思っております。

いずれにいたしましても、今この場でパークゴルフ場がいいのかなんとかというのはまだ申し上げるすべはありませんけれども、個人的にはそれは非常にいい考えだと思っておりますので、ぜひまた具体的な御要望をお寄せ賜りたいと思います。早目に協議を開始します。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ありがとうございました。

私なりにいろんな提案をしてきましたけど、それができて、元気な武雄、武雄が元気な農村になることを期待して、私の質問を終わります。どうもありがとうございました。